

記念塔

江別市立文京台小学校
学校だより No.2
令和6年4月25日(木)
TEL 386-7700
FAX 386-7710



【大麻中学校区 めざす子ども像】
ともに支え合い 夢や可能性に向かって
たくましく生きる子ども

【文京台小学校 重点目標】
「なりたい自分」を描き、他と共に高め合う文京台の子
～子ども一人一人を主語とする文京台の教職員～

「伝統」という「バトン」

校長 田中 美由紀

新年度が始まり3週間が過ぎようとしています。入学式の頃は雪が残っていたグラウンドに、今では子どもたちの声が響いています。ところどころで、タンポポが黄色い花を咲かせています。北海道にも本格的な春がやってきました。

コロナ禍で人との関わりが制限された数年間を経て、昨年度から6年生が朝の1年生のお世話をしています。6年生は、1年生が登校すると、教室で机に学習道具をしまうのを手伝ったり、絵本を読み聞かせたりと献身的に活動しています。6年生からは、「1年生はかわいい」「お世話をするのが楽しい」などといった感想が聞かれ、とてもうれしい気持ちになりました。なにより素晴らしいのは「1年生が、いろいろなことができるようになるための手伝い」を徹底しているところです。これは、何でも「やってあげる」のではなく、「自分でできるところは自分でやらせる」「困っているところだけ支援する」という関わりです。大人は時間のなさを理由に、子どもに「考えさせる」ことや「選択させる」ことを省いて、手を出しすぎてしまいがちです。この6年生の姿を見て、失敗も含めた「経験」や、自分で「考える」「判断する」「行動する・挑戦する」ということの大切さに改めて気づかされました。6年生の活躍で、1年生は日々少しずつではありますが、学校生活に必要なスキルを獲得しています。

子どもがいろいろなことを身に付けるには時間がかかるものです。一度言ったからといって、すぐにできるようになるわけではありません。この6年生の関わりを見ると、身に付くまで繰り返し関わる、できるまで寄り添うその時間が宝物だと感じます。

こういった活動により、6年生には最高学年としてのやりがいや責任感が生まれ、1年生には、身近な上級生としての存在に安心感が生まれるなど、双方により影響や成果があらわれています。この立派な6年生も、入学したときは、当時の6年生にたくさんお世話になったはずです。

コロナ禍で人と人との関わりが一時希薄になりましたが、文京台小学校の6年生は、きちんと上級生から「伝統」の「バトン」を受けついで、新1年生を温かく迎えていました。きっと、この「バトン」は、次の6年生にも受け継がれ、来年の新1年生も温かく迎えられることでしょう。

もうすぐ、ゴールデンウィークを迎えます。事故やけがなどに十分注意し、楽しいものになることを願っています。